

タイトル

「居場所をプラス 全世代のワクワクをプラス つながりを育む KASAI を」（仮）

はじめに 社会教育施設のブラッシュ・アップをめざして

「あり方検討会」の取組み

「公民館」に寄せられる期待

地域学校協働活動の母体に／STEAM教育のサポート施設に

／SDGs推進の地域拠点に／あらゆる住民・地域のエンパワメントの拠点に

第1章 社会教育施設の現状と課題 （by 事務局+）

1. 加西市公民館の現状と課題

中央公民館・南部公民館・北部公民館・善望公民館

2. オークタウン加西の現状と課題

3. 加西市社会教育施設の現状と総合的な課題

第2章 未来に残したい社会教育施設の姿

住民が価値を認めてくれる施設に／住民に関わりたくなる施設に／存在感のある施設に
／来訪する地域の外の人たちが立ち寄りたくなる施設に

1. 公民館の未来像

A だれでも自由に「楽しめる」公民館に

多文化共生の空間として、幅広い世代の人が、障害・ジェンダー・ルーツ（国籍）などに関わらず、それぞれの関心・興味・ニーズに合わせて自由に楽しむことができる場であってほしい。具体的な企画づくりにそうした社会的マイノリティも関わっているような、自由を具現化した公民館であってほしい。

B 居場所として、いつでもだれでも気軽に「立ち寄れる」公民館に

市民だれもが「わが公民館」「居心地のいい場所」と感じ、いつでも気楽に立ち寄れる公民館になってほしい。地域外からの来訪者も公民館を「加西を知る旅の立ち寄り所」と思ってくれるような施設であってほしい。温かく迎えてくれる人がいつもだれか居て、人のにぎわいを味わうことのできる場であってほしい。

C 多様な人・活動と「つながれる」公民館に

近隣のさまざまな地域・市民活動や文化・芸術・科学・スポーツ・平和・福祉に関する活動、あるいは、SDGs（持続可能な開発目標）に関する活動・イベントに直接または間接的に触れることができる場であってほしい。「なにかをしたい」と思っている人が自分

の求める活動を見つけることや、あるテーマについてもっと「深く学びたい」「挑戦したい」と思っている人が、そのきっかけをつかむことができる場であってほしい。

D 住民の「ふだんの暮らしを幸せにする」公民館に

住民の暮らし（労働・余暇・学習など）に直結する多様な団体・組織（自治体、民間企業、地縁組織、各種法人）と連携・協働し、暮らしに必要な社会資源を住民が活用しやすい環境を作る場であってほしい。

E 住民が「互いの持ち前を学び合う」公民館に

互いに異なる生活・活動をしている人たちが知り合い、互いの持ち前（経験・個性・知識・技能・社会関係など）を交換したり、既に知り合いの人同士が互いの新しい持ち前に気づいたりすることで、刺激し合い、学び合う関係が生まれる場であってほしい。

F 住民が互いに学びながら「社会を変える動きにロマンを感じる」公民館に

住民が互いに学びながら、社会を変える動き（暮らしづくり、地域づくり、まちづくり、人類に突き付けられている持続可能な社会づくり）が生まれる場であってほしい。そして、そうした動きが互いに触れ合い、重なり合うことで、新しい「加西・KASAI」が生まれるロマンを全住民が感じ、その本質を KASAI から世界に広げるような拠点になってほしい。

2. オークタウン加西の未来像

G 「帰りたい加西」をサポートする場に

加西出身の他の地域在住者が、加西との縁を感じ、加西の支援者になりたい、あるいは、再び加西に住みたいという気持ちを沸かせる場になってほしい。たとえば、そうした人・家族がお墓参りや地域行事（お祭りやイベントなど）に参加する際に、気安く利用できる宿泊施設となつてほしい。また、宿泊時に、スポーツ・アウトドア活動・キャンプ情報あるいは地域のイベント情報などに触れ、実際に参加したくなるような工夫が豊かな場であつてほしい。

H 加西の風土に触れられる「加西観光の玄関口」に

他の地域からの来訪者も、気楽に宿泊できる場所となつてほしい。スポーツ・アウトドア体験だけでなく、公民館や他の団体・組織の協力のもとで集められた、地域外の人が触れられる加西の風土・自然・文化・産業に関する情報が発信できる場、いわば、「加西観光の玄関口」となつてほしい。

I 加西から地球を感じ考える「内外交流の場」に

宿泊者（または利用者）と地域在住の人とが楽しく気軽に交流できる場であつてほしい。各公民館と連携した交流企画を通して、地域内外の人が、加西の多様な SD（持続可能な開発）のフィールド（たとえば、里山保安林管理、河川湖沼環境保全、古民家再生、移住促進、農村体験、戦争遺跡保存、工場団地見学、地域祭りなどの年中行事など）を知り、地球の未来を感じ・考えるロマンが生まれるような場になつてほしい。

第3章 社会教育施設をブラッシュ・アップするための戦略に関する提言

短期的戦略（2023年度内）／中期的戦略（2026年度内）／長期的戦略（2030年度目安）

1. 短期的に取り組んでもらいたいこと（短期的戦略中心）

・STEAM ラボ・ネットワークの強化

STEAM ラボ運営担当の公民館職員を配置

小・中学校との連携し、「総合的な学習」「探究学習」をサポートする
全住民がSTEAM 教育に触れる・見る・参加するための工夫をする

・公民館へのアクセスビリティ（利用のしやすさ・交通の便）の改善

民間との連携による「おもてなし」意識の向上のための職員研修の実施

「おもてなしボランティア」の募集

「公民館・学校・市役所巡回コミュニティバス（仮称：ふるさとバス）の運行」

イベント参加促進のための「高齢者向け無料タクシー券配布」

各公民館に「オンライン相談窓口」の開設

・公民館の運営体制の強化

職員集団の専門的力を高める

各公民館への専門性の高い正職員（プロデューサー・コーディネーター）の配置・
育成（社会教育主事または社会教育士の資格をもつ正職員を各公民館に少なく
とも1名を、2026年度までに完全配置）

公民館館長を、教育界のみならず、広く加西市住民から公募する

公民館ネットワーク・チームを組織化する

各公民館から、非常勤職員および有償ボランティア複数名を、公民館間の互いの
情報交換の促進と内外への情報発信を主務とする「公民館ネットワーク」とし
て任命し、「加西市公民館ネットワーク・チーム」を組織化する。

公民館支援集団を再組織化する

行政の各部局職員から3名を「公民館サポーター」に任命する。また、各公民館
においては、地縁組織、地縁的企業・NPO の中から「〇〇公民館サポーター」
を募集・任命する。（従来の「社会教育推進員」制度の拡充）

市に、館長・専門性の高い職員・ネットワーク・サポーターおよび社会教育に関
する有識者によって構成される「公民館運営審議会」を組織化する

・「プロジェクト・チーム」の組織化

上記の提案の段階的な実現に向けて、「専門性の高い職員」を中心に、「スクラップ
& ビルド」を基本原則として主催事業等をデザイン・実施する

・公民館事業の内外への発信の強化を

公民館をあまり利用していない住民や観光客が立ち寄りたくなるようなPRを
「ふるさと納税」の返礼品として「市内循環1日無料タクシー券」の配布など

2. やや中期的に取り組んでもらいたいこと（中期的戦略中心）

- ・持続可能な社会づくりに向けての学びと交流の場づくり
全世代向け SDGs 講座（持続可能な社会づくり講座）を主催事業に
各公民館の独自性・強みを生かした事業・運営を
社会教育施設の相互に連携による事業の展開を
（公民館相互・オークタウン加西・図書館など）
高校・大学と連携・協働した企画・実施を
地域内外の NPO と連携・協働した企画・実施を
地縁企業の協力を得ながら企画・実施を
- ・地域内外の人が立ち寄れる空間づくり
フリースペースの開設と柔軟な運用を
…読書・勉強タイムや育児教室タイムなどの限定的な使用も可能になるように
屋外イベント（青空地域食堂・朝市・フリーマーケットなど）が可能な空間を
常設カフェ・臨時レストランの設置を
公民館利用の減免措置対象の見直しを

3. 近未来において実現してほしいこと（長期的戦略中心）

- ・多様なつながり・交流を生む IT 社会に対応した施設整備
STEAM 教育に住民が「触れる」「参加」しやすい空間的整備を
VR 公民館（バーチャル・リアリティ装置）を使って体験ができる「バーチャル
体験型公民館」
e スポーツ会場／e ゲーム空間
オフ会空間（音響設備完備室）
コワーキング・スペース（co-working space）の創設を
…事務所スペース、会議室、打ち合わせスペースなどを共有しながら独立した仕
事を行う共働ワークスタイルを実現する空間
- ・オークタウン加西を核とした「KASAI 体験宿泊ネットワーク」の形成
公共施設から転換された宿泊施設、民間宿泊施設との連携による、加西のイベント
型・単発参加型の学習・文化・スポーツ活動等に関する情報の収集・整理と住民・
来訪者への情報提供が行えるように公民館等の社会教育施設が支援・協力する。
- ・グローバル ESD（持続可能な開発のための教育）の拠点としての機能の拡張
加西市外のグローバルな活動やその推進組織（国連などの国際機関、高等教育機関、
国内の ESD 推進団体など）と連携・協働して事業を実施するほか、住民がスタ
ディツアーなど市外のプログラムや事業に参加しやすい環境・条件を整える拠
点になる。

第4章 加西市行政への期待

1. 教育委員会への期待

『提言』の実現に向けて早急に体制づくりを

- ・社会教育推進および社会教育と学校や民間の教育をつなぐことのできる人材の確保と育成のための工夫を
- ・社会教育および施設の重要性を学校教育関係者により深く理解してもらうことを趣旨とする「学社交流研修会」の定期開催を
- ・公民館等のブラッシュ・アップの必要性を内外に強くアピールする工夫を
- ・社会教育に関する条例・施行規則の改正を
(民間企業との連携、加西市との関連のある団体の施設利用についての緩和を)

2. 市行政全体への期待

「地域は教育の源なり、教育は地域の力なり」の徹底を

- ・生涯教育推進の必要性を、改めて行政内外・市民に周知する努力を
- ・全行政職員への社会教育マインドの浸透のための工夫を
- ・予算の確保・拡充のために具体的な工夫を
- ・社会教育予算獲得のためのタスクフォースの組織化を
- ・「ふるさと加西創成振興計画（生涯学習振興計画）」の策定を

おわりに 対話・交流から KASAI の創造に向けて